

第4章

札幌市教育アクションプラン(後期)

- 1 札幌市教育アクションプラン(前期)の振り返り
- 2 札幌市教育アクションプラン(後期)における重要項目
- 3 札幌市教育アクションプラン(後期)の施策体系
- 4 札幌市教育アクションプラン(後期)の具体的な施策展開
 - 基本的方向性1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進
 - 基本的方向性2 多様な学びを支える環境の充実
 - 基本的方向性3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり
- 5 札幌市教育アクションプラン(後期)の成果指標

第4章 札幌市教育アクションプラン（後期）

1 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返り

札幌市教育振興基本計画は、「教育委員会事務点検・評価¹²」を活用した進行管理により、毎年度、成果や課題を評価・検証しながら、着実に進めてきました。

札幌市教育アクションプラン（前期）では、札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」を実現するため、三つの基本的方向性に沿って、14の基本施策を設定し、学校教育や生涯学習に係る様々な施策を展開することで、一定程度の成果や効果を得ることができました。

一方、個別の事業・取組に着目すると、過渡期のものや、更なる工夫・改善の余地があるもののほか、一部の成果指標で、現状値が、当初値に比べ目標値から遠ざかっているものがある状況となっています。

そのため、札幌市教育アクションプラン（後期）においては、札幌市教育アクションプラン（前期）の施策展開を基本とし、継続性・安定性の確保という教育の特性も勘案しながら、漸次的な改善等を加え、教育施策のより一層の充実・発展を目指す必要があります。

以下、札幌市教育アクションプラン（前期）の基本施策ごとに、「主な取組」「成果指標の動向」「今後の方向性」をまとめました。

成果指標の数値の説明

- 当初値：札幌市教育アクションプラン（前期）策定時の当初値
- 現状値：2018年10月までに把握した最新値
- 目標値：札幌市教育アクションプラン（前期）で設定した目標値

基本的方向性1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進

基本施策1-1 自ら学ぶ喜びを実感できる学習活動の推進

子どもが、「学ぶ力¹³」や、将来にわたって自分らしく生きようとする意欲、心身ともに健康でたくましく生きるための体力等を身に付けることができるよう、様々な学習活動において、自ら学ぶ喜びを実感できる取組を推進しました。

《主な取組》

- 「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン¹⁴」に基づき、指導方法等の工夫・改善を推進
- 市立札幌開成中等教育学校において、国際バカロレア¹⁵のプログラムを活用した課題探究的な学習¹⁶のモデル研究を推進し、その成果を他の学校に普及・啓発

¹² 教育委員会事務点検・評価 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第二十六条に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会の事務を点検・評価している。事務点検・評価に当たっては、学識経験者の知見を活用し、結果については、報告書として札幌市議会に提出するとともに、市民に公表している。

¹³ 学ぶ力 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等のこと。

¹⁴ さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン 学校での学びの質を高め、家庭とも一体となって「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」の「学ぶ力」を育むことを目指した総合的な取組を示したものの。

¹⁵ 国際バカロレア 国際バカロレア機構が定める、異文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、思いやりのある若者の育成などを目的とした国際的な教育プログラムやその資格の総称。

¹⁶ 課題探究的な学習 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習。

- 「算数に一ごプロジェクト¹⁷」による小学校高学年の算数における少人数指導を推進
- 市立幼稚園等における実践研究を推進し、その成果を私立幼稚園等に普及・啓発
- 「さっぽろっ子『健やかな体』の育成プラン¹⁸」に基づき、体育や健康に関する指導を充実
- オリンピアン・パラリンピアンを活用等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を推進
- 「特別外部指導者¹⁹」などの外部人材を活用して、中学校運動部活動の振興を推進
- 職業体験やインターンシップ²⁰を通じて多様な職業に触れる機会を充実するなど進路探究学習を推進
- 「学校図書館司書²¹」の中学校への配置を進め、学校図書館を活用した教育活動を充実

《成果指標の動向》

「1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合」のうち、〔中2男〕以外の区分で目標値に到達しているのははじめ、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している子どもの割合」や「読書が好きな子どもの割合」においても、目標値に向かっている区分が多くなっています。

一方で、「将来の夢や目標をもっている子どもの割合」は、いずれの区分でも当初値に比べ目標値から遠ざかっています。

《今後の方向性》

子どもがより主体的に学ぶことができるよう、課題探究的な学習を取り入れるなど、授業改善の取組を更に進めるとともに、子どもが自分の将来を見据えて生きていくことができるよう、進路探究学習の充実を図ります。

また、子どもの運動習慣の定着化が見られる一方で、運動する子どもとしない子どもの二極化が依然として課題であり、生涯を通じて運動に親しむための基礎を培う教育活動を充実させるとともに、外部人材の活用や、関係機関との連携などによる多様な教育活動を引き続き推進します。

基本施策1-2 共に生きる喜びを実感できる学習活動の推進

子どもが、周囲に働きかけつなごうとする態度を身に付けることができるよう、様々な学習活動において、共に生きる喜びを実感できる取組を推進しました。

《主な取組》

- 「特別の教科 道徳」の全面実施（小学校は2018年度、中学校は2019年度）に向けて、授業等の工夫・改善を推進

17 算数に一ごプロジェクト 課題探究的な学習の充実の一環として、小学校高学年の算数を対象に25人程度の少人数指導を行うことで、学習への意欲や論理的思考力を高めることをねらうもの。

18 さっぽろっ子「健やかな体」の育成プラン 生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力の育成を目指した総合的な取組を示したもの。

19 特別外部指導者 顧問教諭と連携して運動部活動の指導を行うほか、顧問教諭が不在の時も指導ができる者。

20 インターンシップ 学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行うことができる制度。

21 学校図書館司書 札幌市においては、学校図書館法第六条に規定される、「学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による利活用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員」を指す。

- 「札幌市いじめの防止のための基本的な方針²²」を策定し、これに基づき、いじめの防止・早期発見・対処の取組を推進
- 「ピア・サポート²³」など、子どもの自己肯定感や自己有用感を高める取組を推進
- 障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶ機会を充実

《成果指標の動向》

「自分にはよいところがあると考えている子どもの割合」は、〔小6〕と〔中3〕については目標値に到達し、〔高2〕については目標値に向かっています。

「人の役に立つ人間になりたいと考えている子どもの割合」は、〔小6〕については目標値に向かっているものの、〔中3〕と〔高2〕については当初値に比べ目標値から遠ざかっています。

《今後の方向性》

子どもの自己肯定感や自己有用感を高めるなど、豊かな人間性や社会性を育む取組を一層推進します。

当初値 現状値 目標値

自分にはよいところがあると考えている子どもの割合			
小6	73.3 %	83.1 %	78.0 %
中3	67.4 %	79.6 %	76.0 %
高2	65.9 %	66.3 %	74.0 %
人の役に立つ人間になりたいと考えている子どもの割合			
小6	67.8 %	71.9 %	78.0 %
中3	68.3 %	68.0 %	78.0 %
高2	55.4 %	49.3 %	66.0 %

基本施策1-3 ふるさと札幌のよさを実感し、豊かな創造力を育む学習活動の推進

子どもが、未来を切り拓く意欲をもちながら、多様な学びから新たな価値を生み出すことができるよう、札幌の自然環境・人的環境・文化的環境を生かした様々な学習活動を通して、ふるさと札幌への思いや、豊かな創造力を育む取組を推進しました。

《主な取組》

- 「雪」「環境」「読書」を中核テーマに、札幌ならではの教育活動を推進
- 「外国語指導助手（ALT）²⁴」を活用した国際理解教育を全ての学校で推進
- 小学校での「英語専門教師²⁵」の位置付けを段階的に進め、英語教育推進体制を充実

《成果指標の動向》

「札幌には、好きな場所やものがあると答えた子どもの割合」は、〔小5〕と〔中2〕については目標値に到達していないものの、高い水準を維持していますが、〔高2〕については当初値に比べ目標値から遠ざかっています。

「外国の人と交流したいと思う子どもの割合」のうち、〔小5〕と〔高2〕については当初値に比べ目標値から遠ざかっています。

当初値 現状値 目標値

札幌には、好きな場所やものがあると答えた子どもの割合			
小5	90.8 %	91.3 %	95.0 %
中2	84.3 %	84.5 %	90.0 %
高2	84.0 %	78.7 %	90.0 %
外国の人と交流したいと思う子どもの割合			
小5	80.7 %	79.9 %	85.0 %
中2	62.6 %	63.2 %	68.0 %
高2	68.5 %	64.8 %	73.0 %

22 札幌市いじめの防止のための基本的な方針 いじめ防止対策推進法第十二条に基づき策定される、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するための札幌市における取組の基本的な方針。

23 ピア・サポート ピアとは「仲間」、サポートとは「支援」「支える」という意味であり、ピア・サポートとは、「仲間による支援活動」のこと。

24 外国語指導助手（ALT） Assistant Language Teacherの略。小学校における外国語活動や授業及び中学校・高等学校における外国語の授業において、日本人教師の補助を行う外国人。

25 英語専門教師 小学校において、英語教育に関する年間指導計画の作成や、教材の整備、外国語指導助手（ALT）の活用、学習評価等をコーディネートする役割をもつ教員。

《今後の方向性》

札幌の特色を生かしながら、札幌のよさを実感できる取組を更に進めるほか、異文化を理解し、多様な人々と交流する態度や能力などの国際性を育む教育活動を充実させます。

基本施策1-4 一人一人が学び育つための特別支援教育の推進

障がいのある子どもの自立と社会参加を目指し、一人一人の特別な教育的ニーズに応じた指導や支援のほか、障がいのある子どもとない子どもとが共に学ぶ機会の充実に取り組みました。

《主な取組》

- 特別な教育的支援を必要とする子どもに対して学校生活上の支援を行う「学びのサポーター」や、身体的な補助を行う「介助アシスタント」などの外部人材の活用を推進
- 「個別の教育支援計画²⁶」を作成・活用し、一人一人のニーズに応じた指導や支援を推進
- 市立札幌豊明高等支援学校の学科を、卒業後の就労率向上を目指して再編
- 特別支援教育に関する相談について、申込みから実施までの待ち期間縮減のため、相談体制を強化
- 障がいのある子どもとない子どもとが共に学ぶ機会を充実

《成果指標の動向》

目標値に向かっているものの、まだ開きがあります。

	当初値	現状値	目標値
特別な教育的支援を必要とする子どもの個別の教育支援計画を作成している幼稚園、学校の割合	59.3 %	74.7 %	100 %

《今後の方向性》

「個別の教育支援計画」の作成・活用を一層推進するなど、一人一人の特別な教育的ニーズに応じた相談・支援の更なる充実を図ります。

基本施策1-5 継続的・自発的な学習活動を支援する総合的な生涯学習の推進

市民の自発的な学びや学び合いを支援・促進するとともに、市民が学んだ成果を地域の活動に生かすことができる機会の創出に取り組みました。

また、あらゆる世代が意欲的に学ぶための基礎となる読書活動への支援を進めました。

《主な取組》

- 「第3次札幌市生涯学習推進構想²⁷」を策定し、これに基づき、生涯学習支援を総合的に推進
- 「さっぽろ市民カレッジ²⁸」の講座を充実して、市民の多様な学びを支援
- 各図書館において、子どもが読書に親しむきっかけとなる発達の段階に応じた様々なプログラムを実施

26 個別の教育支援計画 子どもの障がいの状態等に関わる情報を、その子どもに関わる様々な関係者が共有できるよう、教育的支援の目標や内容、関係者の役割分担について計画するもの。

27 第3次札幌市生涯学習推進構想 時代の変化等に対応した生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を改めて整理しなおし、これらに基づき関連施策を総合的・計画的・体系的に進めていくことを目的としたもの。計画期間は、2017年度から概ね10年間。

28 さっぽろ市民カレッジ まちづくりや産業の担い手の育成を進めるため、ボランティアや市民活動、まちづくり等を促進する「市民活動系」と、職業能力の向上や産業の育成・活性化を促進する「産業・ビジネス系」を柱に、「文化・教養系」を加えた学習プログラムを継続的かつ体系的に市民に提供する講座。

《成果指標の動向》

「さっぽろ市民カレッジの受講に満足している受講者の割合」は、目標値に向かっています。

「図書館の利用に満足している利用者の割合」は、目標値に到達しています。

《今後の方向性》

引き続き、市民ニーズを的確に捉えた学習機会の提供に努めるとともに、図書館におけるサービスの質の向上などに取り組みます。

当初値 現状値 目標値

さっぽろ市民カレッジの受講に満足している受講者の割合

81.0 % 85.1 % 90.0 %

図書館の利用に満足している利用者の割合

87.0 % 91.4 % 90.0 %

基本施策1-6 学びの場の連携の推進

一貫性・連続性のある学びにより、子どもが個性や能力、興味・関心を継続して伸ばすことができるよう、各校種や大学、生涯学習関連施設などの学びの場の連携を推進しました。

《主な取組》

- 子どもが就学先・進学先の学校を体験できる機会を充実
- 小中一貫教育に係る実践研究を実施
- 市立札幌開成中等教育学校において中高接続と6年間の継続した学びを意識した研究を実施し、その成果を他の中学校や高等学校へ普及・啓発
- 市立札幌大通高等学校において「学社融合²⁹講座」を実施し、高校生と大人の多世代交流を推進

《成果指標の動向》

〔小学校〕と〔中学校〕については、目標値に到達していないものの、高い水準となっています。

〔高校〕については、目標値に到達しています。

《今後の方向性》

子どもの一貫性・連続性のある学びを充実するため、学びの場の連携を一層進めます。

当初値 現状値 目標値

子どもが参加する校種間連携を実施している学校の割合

小学校 74.8 % 99.0 % 100 %

中学校 99.0 % 91.7 % 100 %

高校 87.5 % 100 % 100 %

※小学校→幼稚園や保育所等と連携している小学校の割合

※中学校→小学校と連携している中学校の割合

※高校→中学校と連携している高等学校の割合

基本的方向性2 多様な学びを支える環境の充実

基本施策2-1 安全・安心・環境に配慮した学校の整備

安心して子どもが学ぶことができるような体制づくりを行うとともに、自然環境や機能性などにも配慮した安全で信頼される学校づくりを進めました。

《主な取組》

- 「札幌市学校施設維持更新基本計画³⁰」を2016年3月に策定し、これに基づき、学校施設の改築や長寿命化などを計画的に実施

²⁹ 学社融合 学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で、そこから一歩進んで、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいこうという考え方。

³⁰ 札幌市学校施設維持更新基本計画 札幌市の学校施設整備の現状と課題を整理し、将来に大きな負担を先送りすることなく、学校施設を健全に保ち、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる環境を形成することを目的としたもの。計画期間は、2015年度から30年間。

- 「スクールガード³¹」による見守り活動など、子どもの登下校時の安全対策を推進
- 防災教育などの安全教育を充実

《成果指標の動向》

いずれの区分においても、目標値に到達しています。

《今後の方向性》

引き続き、子どもの防災意識を高める教育や、登下校時の安全対策を充実するとともに、子どもが安心して学び、生活できる学校施設の整備を進めます。

	当初値	現状値	目標値
子どもが自ら身を守ろうとする態度や能力を育む安全教育を実施した学校の割合			
小学校	87.6 %	100 %	100 %
中学校	73.2 %	100 %	100 %
高校	75.0 %	100 %	100 %

基本施策 2-2 豊かな教育環境づくり

子ども一人一人の能力を伸ばし、社会において自立して生きる基礎を培うため、子どもの学びを支える豊かな教育環境づくりを進めました。

《主な取組》

- 中高一貫教育を行う市立札幌開成中等教育学校を2015年4月に開校
- 改築する小学校に、児童会館やまちづくりセンターなどを複合化する取組を推進
- 多様な職業コースを設定する市立札幌みなみの杜高等支援学校を2017年4月に開校
- 特別支援学級の拡充など、子どもができるだけ身近な地域で学ぶことができる環境づくりを推進
- 「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針³²」に基づき、学校規模適正化を推進

《成果指標の動向》

いずれの区分においても、目標値に到達しています。

《今後の方向性》

子どもの多様な学びを実現することができるよう、引き続き、安全面や機能面などにも配慮した学校施設の整備に取り組むほか、特別な教育的支援を必要とする子どもが、できるだけ身近な地域で学ぶことができるよう、医療的ケア³³を含めた支援体制の充実を図るなど、豊かな教育環境づくりを進めます。

	当初値	現状値	目標値
小・中学校における特別支援学級の整備率			
小学校	81.4 %	92.6 %	85.0 %
中学校	65.7 %	84.8 %	70.0 %

基本施策 2-3 多種多様な学習環境の整備

市民が生涯にわたって学び続けることができるよう、多種多様な学習環境の整備に取り組みました。また、学校施設と生涯学習関連施設について、それぞれの機能を有機的に結び付け、より効果的な活用・交流ができる場として、充実を図りました。

31 スクールガード 幼稚園・小学校・特別支援学校の校舎付近で、子どもの登下校時の見守り活動や、危険箇所の巡視等を行うボランティア。

32 札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針 札幌市立小・中学校の学校規模の現状、学校規模適正化の必要性、適正な学校規模、取組を進める上での基本的な考え方や手法などをまとめたもの。2018年4月に見直しを行った。

33 医療的ケア 一般的に学校や在宅等で日常的に行われている、たんの吸引・経管栄養・気管切開部の衛生管理等の医行為のこと。

《主な取組》

- 青少年科学館のプラネタリウムを2016年4月にリニューアルオープン
- 絵本専門の図書館として「札幌市えほん図書館」を2016年11月に開館
- 課題解決型図書館として「札幌市図書・情報館」を2018年10月に開館
- 中学校への「学校図書館司書」の配置を進め、学校図書館の機能を強化

《成果指標の動向》

「生涯学習関連施設の利用に満足している利用者の割合」については、目標値に到達していないものの、高い水準となっています。

「図書館の利用に満足している利用者の割合」は、目標値に到達しています。

《今後の方向性》

より身近な地域において市民の継続的・自発的な学習活動を支えるため、生涯学習センター³⁴と図書館との連携を深めるとともに、各施設でのサービスや機能の向上を図るなど、多種多様な学習環境の整備を進めます。

	当初値	現状値	目標値
生涯学習関連施設の利用に満足している利用者の割合	85.9 %	86.0 %	90.0 %
図書館の利用に満足している利用者の割合 (再掲)	87.0 %	91.4 %	90.0 %

	当初値	現状値	目標値
生涯学習関連施設の利用に満足している利用者の割合	85.9 %	86.0 %	90.0 %
図書館の利用に満足している利用者の割合 (再掲)	87.0 %	91.4 %	90.0 %

基本施策2-4 教職員の資質・能力の向上

教育に関する諸課題に対応するため、教職員の専門的知識・技能を向上させるとともに、管理職のリーダーシップの下、組織的かつ効果的に教育活動を展開することができるよう、教職員の採用や人事、研修の工夫・改善に取り組みました。

《主な取組》

- 教員採用候補者選考検査において、4月1日以降の採用枠の新設や、資格等による免除措置の拡大などを通じ、多様な人材の採用を推進
- 実効性・専門性の高い研修を計画的に実施

《成果指標の動向》

目標値に届いていないものの、高い水準となっています。

《今後の方向性》

ますます複雑化・多様化する教育課題に適切に対応できるよう教職員の資質・能力の一層の向上を図ります。また、教職員が能力を発揮し、子ども一人一人と向き合いながら教育活動に専念できるよう、業務の適正化などに取り組みます。

	当初値	現状値	目標値
研修の成果を活用できると答えた教職員の割合	94.7 %	98.9 %	100 %

	当初値	現状値	目標値
研修の成果を活用できると答えた教職員の割合	94.7 %	98.9 %	100 %

基本施策2-5 学びのセーフティネットの充実

いじめや不登校、保護者の経済的な事情など様々な要因により、学校での学びに不安や悩みを抱える子どもが、安心して学び、成長していくことができるよう、問題発生未然防止に努めるとともに、子ども一人一人の状況に応じた適切な支援体制の充実を図りました。

³⁴生涯学習センター 市民の様々な生涯学習活動を支援することを目的とした施設。436人収容可能なホールをはじめ、演劇や音楽の練習スタジオ、図書の閲覧やデジタル映像ソフトの視聴が可能なメディアプラザ、陶芸室、茶室など、幅広い学習ニーズに対応できる設備と機能がある。

《主な取組》

- 「スクールカウンセラー³⁵」の配置時間を拡充して、子どもの状況に応じた支援を充実
- 「スクールソーシャルワーカー³⁶」を増員し、関係機関等と連携した、子ども及び家庭への支援を充実
- 「相談支援パートナー³⁷」を活用して、不登校やその心配のある児童生徒に対する校内の別室での支援などを充実
- 教育支援センター³⁸を2か所に拡大して、不登校児童生徒に対する学校復帰に向けた支援を充実
- 就学援助の一部の支給費目について支給時期等を見直し

《成果指標の動向》

「いじめなどの不安や悩みを身近な人などに相談する子どもの割合」のうち、〔小学校〕と〔中学校〕については目標値に向かっていきます。〔高校〕については目標値に到達しています。

「不登校児童生徒の在籍率」は、当初値に比べ目標値から遠ざかっています。

《今後の方向性》

引き続き、早期からの継続したきめ細かな支援などにより、学びのセーフティネットの一層の充実を図ります。

	当初値	現状値	目標値
いじめなどの不安や悩みを身近な人などに相談する子どもの割合			
小学校	92.1 %	93.9 %	95.0 %
中学校	82.2 %	86.5 %	88.0 %
高校	80.7 %	88.8 %	86.0 %
不登校児童生徒の在籍率			
	1.20 %	1.76 %	1.10 %未満

基本施策2-6 学校における情報化の推進

学校において、ICTを最大限に活用することによって、教育の質を向上することができるよう、ICT機器や教材の整備を進めるとともに、校務支援システム³⁹を活用して、校務の効率化を推進しました。

《主な取組》

- コンピュータ教室のタブレット端末⁴⁰や、教員の授業用タブレット端末などの機器整備を推進
- デジタル教科書などの教材整備を推進
- 校務支援システムの更新に当たり、機能改善等を行うことで、校務の効率化を一層推進

《成果指標の動向》

目標値に向かっていっているものの、まだ開きがあります。

	当初値	現状値	目標値
授業や校務にICTを効果的に活用できる教員の割合			
	65.0 %	71.6 %	77.0 %

35 **スクールカウンセラー** 子どもの不安や悩みの相談に当たるとともに、保護者・教員などに対し、子どもとの関わりについての助言・支援を行うため、学校に配置される臨床心理士などの心の専門家。

36 **スクールソーシャルワーカー** 教育と福祉の両面に関わる専門的な知識や技術を活用し、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、問題を抱えた子どもを取り巻く環境の改善に向けて支援する専門家。

37 **相談支援パートナー** 不登校やその心配のある子どもに対し、教職員と協力しながら、登校に向けた支援や別室での学習支援などを行うボランティア。

38 **教育支援センター** 不登校の小・中学生を対象に、学校以外の場において、学校への復帰及び将来的な社会的自立に向けた支援をするため設置されたもの。札幌市では、教育支援センター宮の沢、教育支援センター白石を設置。

39 **校務支援システム** 学校における子どもの情報をデータ化し、成績処理、履修管理、学籍管理、保健管理、学校徴収金管理、各種名簿の作成、日常生活の把握などの学校業務（校務）を効果的に行うためのシステム。

40 **タブレット端末** コンピュータの種類の一つで、タブレット（平板）型でキーボードは付いておらず、液晶の画面に指先をあてながら操作することができる端末。ノートパソコンより小さくて軽く片手で持ちながら利用できる。着脱式のキーボードを付けることができるタイプのものもある。

《今後の方向性》

引き続き、ICT機器やデジタル教材の整備を進めるとともに、教育活動に効果的に活用できるよう、教員のICT活用指導力の向上を図ります。

基本的方向性3 市民ぐるみで支え合う仕組みづくり

基本施策3-1 地域と学校が支え合う仕組みづくり

社会全体で子どもを支えていくため、地域に開かれた学校づくりや、地域住民、企業、大学等の教育機関などがもつ人的資源や技能などの地域の教育力を生かした学習環境づくりを進め、地域と学校との双方向の結び付きの強化を図りました。

《主な取組》

- 「サッポロサタデースクール⁴¹」の実施校を拡大して、地域と学校との連携を強化
- 学校図書館を地域に開放する学校を増やして、地域住民の生涯学習・多世代交流の場づくりを推進
- 「市立高校コンシェルジュ⁴²」のコーディネートにより、高等学校の教育活動などにおける地域人材の活用を推進
- 各園・学校における様々な教育活動でボランティアの活用を推進

《成果指標の動向》

いずれの区分についても、目標値に到達していないものの、高い水準となっています。

《今後の方向性》

引き続き、地域の教育力を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となった取組を進めます。

当初値 現状値 目標値

	当初値	現状値	目標値
保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動を学校の教育水準の向上に効果的に活用している学校の割合			
小学校	91.1 %	91.2 %	95.0 %
中学校	74.5 %	81.8 %	88.0 %

基本施策3-2 家庭の教育力を高める仕組みづくり

保護者同士の交流や学び合いの推進により、家庭の教育力の向上を図り、子どもの学習環境を整えました。また、親子が共に学び、触れ合う機会を創出しました。

《主な取組》

- 「家庭教育学級⁴³」の開催により、保護者同士の交流や学び合いを推進
- 「親育ち応援団⁴⁴」における講演会などの開催により、家庭教育に関する意識啓発を推進
- 「さっぽろっ子『学び』のススメ⁴⁵」のリーフレットを小・中学生がいる全家庭に配布し、活用することで、各園・学校と家庭とが連携した子どもの習慣づくりを推進

41 サッポロサタデースクール 地域の教育力の向上を図るとともに、地域と学校の連携の仕組みを整えることを目的に、地域の多様な経験や技能をもつ人材・企業等の豊かな社会資源を活用した学習支援や地域の伝統文化体験活動等のプログラムを、土曜日や学校の長期休業中に学校施設等を活用して実施する事業。

42 市立高校コンシェルジュ 学校が新たな取組を実践するに当たり、外部人材と学校とをつなぐための調整役を果たしたり、学校の取組の成果を広く市民に情報発信したりする機能をもった組織や人材。

43 家庭教育学級 家庭における教育力の向上を図ることを目的に、幼稚園、小学校、中学校を単位として、親等が子どもとの接し方や親としての役割などについて自主的に学習する事業。

44 親育ち応援団 講演会などを通じて、子育て中の親等を対象に、生活習慣やしつけ等に関する知識や技術習得などの情報発信や助言等を行う事業。

45 さっぽろっ子「学び」のススメ 学校と家庭が一体となって子どもの学習習慣・運動習慣・生活習慣づくりを支える指針。

《成果指標の動向》

〔小6〕については、当初値に比べ目標値に向かっていています。〔中3〕については、目標値に到達していません。

《今後の方向性》

引き続き、家庭教育力の向上を図るとともに、親子が共に成長できる機会の創出に取り組みます。

	当初値	現状値	目標値
家の人と学校での出来事について話をする子どもの割合			
小6	74.3 %	78.8 %	80.0 %
中3	65.9 %	74.8 %	70.0 %

2 札幌市教育アクションプラン（後期）における重要項目

前述した教育を取り巻く現状や、札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、札幌市教育アクションプラン（後期）において特に力を入れて取り組む項目を設定しました。

重要項目1 「学ぶ力」の育成

- 新学習指導要領等で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通じて、子どもに「生きる力」を培うことが求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、子どもがより主体的に学ぶことができるよう、課題探究的な学習を取り入れた授業改善を推進する必要があります。

重要項目2 「健やかな体」の育成

- 新学習指導要領で、オリンピック・パラリンピックに関する指導として、子どもがスポーツの意義や価値等に触れることができるようにすることが求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、引き続き、子どもに生涯を通じて運動に親しむための基礎を培う必要があります。

重要項目3 命を大切にする指導の充実

- 「特別の教科 道徳」などにより、子どもに自分や他者の生命を尊重する態度を育む教育を充実させることが求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、子どもの自己肯定感や自己有用感を育む教育を充実させる必要があります。

重要項目4 進路探究学習の充実

- 技術革新の加速などによる産業構造の変化に対応して、子どもの勤労観・職業観を育む必要があります。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、子どもが将来に希望をもち自分らしい生き方を実現できるようになるための取組を充実させる必要があります。

重要項目5 札幌らしさを生かした学習活動の推進

- 「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた学びの推進には、札幌の豊かな自然環境・人的環境・文化的環境を学習活動に生かすことが有効です。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、札幌の特色を生かしながら、札幌のよさを実感できる取組を一層進める必要があります。

重要項目6 国際性を育む学習活動の推進

- グローバル化の進展を背景に、新学習指導要領において、小学3・4年生で「外国語活動」、5・6年生で「外国語科」が導入されるなど、外国語教育の充実が求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、子どもが異文化を理解し、多様な人々と交流する態度や能力を身に付けることができる教育を充実させる必要があります。

重要項目7 生涯学習環境・体制づくり

- 人々のライフスタイルが多様化する中、誰もが生涯を通じて、いつでも、どこでも学ぶことができるよう、市民の学習活動の拠点となる生涯学習関連施設の活用などが求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、生涯学習センターと図書館との連携を深めることなどを通じて、より身近な地域における市民の学習活動を支える環境づくりに取り組む必要があります。

重要項目8 安心して学ぶための支援

- 「義務教育段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」で、不登校児童生徒などへの支援の充実が求められています。
- 子どもの貧困対策が急務となっており、専門的人材の活用などを通じた、子どもやその家庭に対する支援の充実が求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、不安や悩みを抱える子どもへの支援を充実させる必要があります。

重要項目9 地域に開かれた園・学校づくり

- 新学習指導要領等で、園・学校と家庭、地域が一体となって子どもに「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。
- 札幌市教育アクションプラン（前期）の振り返りを踏まえ、地域の教育力をこれまで以上に活用しながら、取組を進める必要があります。